

# 30年8月分 プレカットの荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成30年 8月1日～ 30年8月10日

## 2. 調査実施方法

全国のプレカット工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
8月分の回答企業数は8社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

### (1) プレカット加工用部材の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/8月	9月	10月
仕入動向	国産材製材品	0.0	12.5	12.5
	外材製材品	△ 6.3	△ 6.3	6.3
	構造用集成材	0.0	7.1	14.3
消費動向	国産材製材品	0.0	6.3	12.5
	外材製材品	0.0	6.3	6.3
	構造用集成材	△ 7.1	14.3	14.3
在庫動向	国産材製材品	△ 21.4	14.3	14.3
	外材製材品	△ 28.6	△ 7.1	△ 14.3
	構造用集成材	△ 16.7	0.0	0.0

・国産材製材品の仕入動向は8月の横ばいから9、10月は増加に。外材製材品は8月、9月の減少から10月は増加に。構造用集成材は8月の横ばいから9月、10月は増加に。

・国産材製材品、外材製材品の消費動向は8月の横ばいから9月、10月は増加に。構造用集材は8月の減少から9月、10月は増加に。

・国産材製材品の在庫動向は8月の減少から9月、10月は増加に。外材製材品は3カ月連続減少。構造用集成材は8月の減少から9月、10月は横ばい。

### (2) プレカット工場受注動向 Weight. D. I.

品目	30/8月	9月	10月
受注	18.8	25.0	12.5
加工	6.3	25.0	25.0
受注残	△ 6.3	0.0	△ 6.3

・プレカット工場の受注、加工動向は3カ月連続増加。

・受注残の動向は8月の減少から9月は横ばい、10月は再び減少に。

## モニターからのコメント

### (加工用部材荷動き)

- ・部材は順調に入荷。消費は若干多めで推移。在庫は徐々に減少中。
- ・海外から予定どおり入荷したため、仕入動向は横ばいで安定。外材製材品の使用比率の高い物件の受注が増加したため、その部分の消費は増加。外材製材品の仕入は安定、消費は増のため在庫は減。今後需要期に入るため、国産材以外の在庫は減少気味。
- ・仕入、消費動向とも国産材製材品仕様の物件がやや増加している。製材品は受注時の発注しており、在庫は持たないようにしている。

### (受注動向)

- ・入梅で弱含み予想も空梅雨で仕事は順調。少なめの受注をオーバー気味の加工で推移。
- ・需要期に入るため、受注・加工はやや増加、受注残はやや減少になる見通し。
- ・7月から注文が増えてきた。受注、加工、受注残とも3カ月連続やや増加。